

令和6年度北海道・東北体育・保健体育ネットワーク研究会 岩手わんこそばラウンド報告書



13杯目！

令和6年7月6日(土) 岩手大学 ※ハイブリット対応

参加者13名(山形、岡山、福岡、熊本、岩手)

学生、小中高の教員及び指導主事が校種や立場を超えて、体育授業研究事例の発表と「知識・技能を評価について考える」について語り合い、有意義なラウンドにすることができました。



実践発表「知識・技能の評価についての実践紹介」

発表①「体育科における知識・技能を整理する」

【発表者】大船渡市立盛小学校 志和孝洋 先生

知識・技能の捉えを深めることと、何を教えるか整理する領域の特徴を際立たせる知識として何を教えるかを整理された発表でした。

①知識と技能はイコール(=)か ②知識及び技能の階層性について ③知識・技能は何を教えるか

体育科の特性として、ポイントは理解しているができない何も考えていない児童が存在することがよくあります。つまり「知識」と「技能」は決して「=」ではないこと、評価の際に「A」「B」「C」をどんな段階に児童がいて、その際にどんな指導が必要かを明確にしていく必要があること、そして領域ごとに知識・技能は何を教えていくべきかを丁寧に整理された発表でした。

発表②『小学校中学年における知識及び技能の指導と評価の一体化

～「態度の形成に関する知識」に着目して～

【実践校】宮古市立鋤ヶ崎小学校 村上貴史 先生

学習評価の機能として①指導と評価の一体化②説明責任の遂行③自己評価能力の育成の3点があげられるとされています。カリキュラムの評価については

「いつでも」「どこでも」「だれでも」実施できる学習評価の必要性

を感じます。

本発表では「態度に関する知識」について、公正・協力・責任・参画・共生・健康と安全について、領域毎に重点を設定して指導と評価の一体化を図ることを提案されました。そして単元内で「態度に関する知識」を具体的に指導することの必要性や優位性についても触れていただきました。



ワーク「知識・技能の評価について」

～概念的知識・具体的知識・方法的知識に分けて考える～

ワークは2グループに分かれて、標題の内容について話し合いました。

ネット型の教材についてと、水泳についてのワークでした。概念的知識、具体的知識、方法的知識について分類しながらワークを進めることで「何を習得させるためにどんな方法を使ってどう指導するか」について整理してまとめることができました。少人数ではありましたが、非常に濃いワークができたと思います。

